# 「グラスルーツ・アカデミー東北2016 in 福島」開催報告

「グラスルーツ・アカデミー東北」は、東北3県（宮城、岩手、福島）の次世代を担う女性たちが集い、学び合い、ネットワークを構築する場。2016年2月に岩手で第1回が開催された。2回目となる今回は、「地域でどう人を巻き込むか」というテーマにフォーカス。3日間の日程で行われ、17人が参加した。

## アカデミーの三本柱

1 お互いの経験から学び合うため自分自身も貢献する
2 課題解決につながるスキルや具体策を持ち帰る
3 他地域での実践を視察し、自地域の課題解決に役立てる

**日 程** 2016年8月5日～7日
**参加人数** 17人（スタッフ、子ども、関係者を含めると39人）
**主 催** NPO法人ウィメンズアイ
**協 力** 特定非営利活動法人JEN
特定非営利活動法人 オックスファム・ジャパン

## 講 師 陣

### 大崎 麻子

UNDP（国連開発計画）ニューヨーク本部で途上国の女性支援を担当し、現在は日本国内の女性・ガールズ支援に従事している。サンデーモーニング（TBS系）のレギュラー・コメンテーター。著書に『女の子の幸福論もっと輝く、明日からの生き方』（講談社）。

### 田島 誠

環境エネルギー政策研究所特任研究員。長年国際協力に従事し、東日本大震災では、国際協力NGOセンター（JANIC）で後方支援活動を主導した。国際協力NGOセンター（JANIC）の防災アドバイザー、CWS Japan理事、ウィメンズアイ理事。

### 若希（ジャッキー） スティール
（調査・研究担当）

カナダ出身、政治学の専門。女性の政治参画と多様性についての研究をカナダと日本で長く続けている。住まいは長野県千曲市。現在、上智大学でも女子学生向けに選挙についての講義を担当している。東京大学社会科学研究所准教授。

## プログラム内容・スケジュール

**1日目**

13:00 アカデミー開始
主催者挨拶、ゲスト・スタッフ紹介
13:30 参加者の自己紹介、施設の紹介
14:15 参加者の活動紹介（3グループに分かれて）
17:15 事務連絡～終了～宿に移動
18:30 懇親会

**2日目**

9:00 レクチャー「地域での人の巻き込み方について」
9:30 グループワーク① 課題・原因・解決法を整理
12:00 昼食
13:10 グループワーク② 解決策を考える
15:00 グループワーク③ アクションプランの作成
16:45 事務連絡～終了～宿に移動
18:30 夕食

**3日目**

8:30 蓮笑庵ツアー～リラックスタイム
10:00 プレゼンテーション
「蓮笑庵の取り組みについて」
11:00 レクチャー「世界と日本の再生可能エネルギーへの取り組み事例」
12:15 昼食
13:30 3日間の振り返り、学び・感想のシェア
15:00 抹茶タイム、事務連絡など
16:00 終了

# 1日目 8/5（金） オープニング、活動紹介

福島県田村市の「アトリエ蓮笑庵」を会場に、「グラスルーツ・アカデミー東北2016 in 福島」がスタート。

◆主催者挨拶、ゲスト・スタッフの紹介。

ウィメンズアイの田浦より、「このアカデミーは、みなさん自身がどんどん参加・貢献する場です。学びが有意義なものとなるよう、互いにリスペクトを。そして楽しんでください」と挨拶。

次に、ウィメンズアイ代表の石本よりアカデミーの紹介。始まりは2015年3月。世界各地で行われていた「グラスルーツ・アカデミー」を、第3回国連防災世界会議のプレイベントとして南三陸町で開催した。地域のために活動する若い世代の女性が集まる場、学び合う場として続けていくことに。「何を持ち帰るかは自分次第です。ぜひ最高のものを持ち帰ってください」。

JENおよびオックスファムからのゲストとスタッフの紹介後、参加者の自己紹介を行った。

◆鎌田千瑛美さんから蓮笑庵の説明。民画家の故・渡辺俊明氏のアトリエだった。震災後、ボランティアを受け入れたことをきっかけに、多くのNPOなどの交流の場としても活動が広がり、「NPO法人蓮笑庵くらしの学校」が立ち上がる。

◆休憩を挟み、参加者はA：5人、B：4人、C：5人の3グループに分かれて活動紹介。それぞれの活動における課題を共有・収集した。

たとえば次のような課題・悩みが挙げられた。

**Aグループ：**NPO運営・活動の課題は、資金集めが大変なこと。実費しか出ず人件費は出ないため、メンバーのモチベーションが下がり、どんどん辞めていくという事態に。組織をいかに維持するかが大きな悩み。

**Bグループ：**放射能を市民レベルで測る活動を行っている。悩みは行政側と意見の違いがあること。市民の不安を煽る団体として見られてしまうことがある。また、企業からの助成金を受けて活動しているが、助成金が切れたときには完全にボランティアになってしまう。信念だけで続けている。

**Cグループ：**高校生のときから震災にまつわる詩の朗読を各地で行っている。就職後に活動とどうバランスを取っていったらよいか、福島との関わりをどのようにしていけばよいかが、目下の悩み。

◆活動紹介を終えての感想を共有。「わかる〜！」という共感の声のほか、「女ならでは、地域ならでは、組織ならでは…。突き詰めていくとみんな同じところで悩んでいる。明日みなさんと答えを探っていくのが楽しみ」「新しい視点を得られてよかった」「若い方が多く、よく考えているなぁと刺激を受けた」など、有意義な時間だった様子。大学生の参加者たちからは、「現実味のある話を聞くことができ、学校の授業よりも勉強になった」「伝えることによって自分の活動を振り返ることができた。ほかの方の話を聞いて、自分に足りていないことが見えた」という声が聞かれた。

# 2日目 8/6（土） レクチャー＆グループワーク

ジェンダーの専門家として国連などで活躍してきた大崎麻子さんを迎え、前日に出た課題の解決に取り組んだ。

◆「地域での人の巻き込み方について」というテーマで大崎麻子さんよりレクチャー。

「ここに集った私たちは、それぞれの現場で何らかの変革、チェンジを起こそうとしている。たとえば、途上国で政府に政策変更を求めるときにどんなアプローチをするか。まずは、『これが道義的に正しいことだからやってください』と主張すること。これは正攻法だが、聞き入れられにくい。次に、『国際法や国際的な合意事項を国内で実施する義務がありますよね』と指摘すること。実施しないことが外国からの支援減につながりかねないので、それなりに効果を発揮する。もうひとつは、経済的合理性に焦点を当てる方法。変革を行うことの経済的メリットや“お得感”を強調する。実はこれが一番効果的で、しかも万国共通」。

◆大崎さんの話を念頭に置きながら、「女ならでは」「地域ならでは」「組織ならでは」の課題にどのように向き合うかを考えるグループワークを行った。まず、課題・原因・解決法をそれぞれに整理して発表。課題を整理すると、個人としての課題、地域で活動することの課題、組織運営の課題に大きく分けられた。

◆個人の課題として出てきたのは、押し付けられた女らしさや、仲間づくりの困難など。解決策として、ネットワークとつながる、コミュニケーション、人の助けを受け入れる「受援力」を育むことなどが挙げられた。

地域で活動することの課題として挙げられたのは、価値観の違う人をどのように巻き込むか、多様性を認めない社会でどのように活動していくか。ここでは、共有できる価値観を見つけて突破すること、よそ者だからこそできること、そして場合によっては自分を信じてとにかく貫くことが、自分たちにやれることとして共有された。

そして、活動を数年続けてきた人たちにとって大きかったのが、組織運営の課題。震災から5年が経ち、資金調達、活動のビジョンや組織の目指す姿の確認が必要であることが浮かび上がってきた。また、「ボランティア」や「善意」には限界があるので、有給スタッフとすることで活動を担う側の持続可能性を確保すること、そして責任を明確化する必要性などが話し合われた。

◆昼食後のグループワークでは、解決策を考える一環として、その場に集まった資源を有効活用するという観点から、それぞれの参加者が提供できるものをリスト化。広報やプロジェクトデザインのアドバイスを提供できる人、チームビルディングやスキルアップのワークショップでファシリテーションができる人など、アカデミー参加者の中にたくさんの経験と資源があることを確認。つながり、支え合うことの可能性が見えてくる。

◆最後のグループワークでは、各自がアクションプランを作成。名刺を作り、ブログを始め、発信を行うという人。活動の評価シートを作るという人。経験値の高い今回の参加者を講師に、若者向けのイベントを企画するという人たち。さまざまなアクションプランが発表された。

また、アカデミーの今後に対しては、メンター的コミュニティとして継続していくこと、マネジメントや組織運営などのスキル・トレーニングの提供などを期待する声が寄せられた。

# 3日目 8/7（日） 学びの振り返りとシェア

持続可能な暮らしをテーマとした福島での活動事例の紹介の後、3日間の学びの振り返りとシェアを行った。

◆朝、「アトリエ蓮笑庵」代表の渡辺仁子さんに話を伺うところからスタート。職人とともに日々の暮らしをていねいにつくりあげた、故・渡辺俊明氏の想いが息づく空間をゆっくり散歩し、参加者はそれぞれに1日の始まりを整えた。

◆鎌田千瑛美さんより、「NPO法人蓮笑庵くらしの学校」の事例発表。原発事故以降、人をつなぐ活動をしてきた鎌田さんは、震災1年後に初めて「アトリエ蓮笑庵」を訪れ、福島にこのように貴重な場所が残っていたことに感銘を受けた。小さくとも持続できる経済、場づくりをここから広げていこうと、参加型ワークショップなどを通して、隣接する古民家の再生を少しずつ進めている。自家発電にも挑戦するつもりだ。

課題は、いかに古民家を活かして活動を持続させるか。日々の運営管理や、近隣コミュニティとの関係性などについて質問が寄せられるとともに、鎌田さんへのエールが送られた。

◆続いて、環境エネルギー政策研究所特任研究員であり、防災アドバイザーとしてグラスルーツ・アカデミーを支える田島誠さんより、自立的・持続的で災害に強い社会をつくるのに欠かせない再生可能エネルギーについての講義。再生可能エネルギーに関する誤った思い込み、世界的な潮流の概説から始まり、日本での取り組みの遅れが指摘された。国内における地域エネルギーシステムの導入事例、市民電力、自家発電などについては参加者の関心も高く、熱心な質問が相次いだ。

◆昼食には、蓮笑庵のみなさんが手づくりされた滋味あふれる大皿料理をいただく。故・渡辺俊明氏が絵付けした器も。美しい盛り付けに、あちこちでため息がもれた。

◆午後は自己振り返りシートの記入とシェア。約1時間、好きな場所に移動して静かに自分と向き合い、3日間の自己振り返りシートを記入。また、参加者ひとり一人の「強み」だと感じたことをメモして本人に手渡しした。最後に、今回のアカデミーに参加して自分の中に起きた変化などについて、一言ずつ感想をシェア。20代前半の参加者からは、今後のヒントをもらえたという声が聞かれた。

※「グラスルーツ・アカデミー東北」は、2019年3月までの3か年計画で、東北3県で順次開催予定。2017年2月には北米での研修も実施される。

グラスルーツ・アカデミー東北　事務局・問合先
Women's Eye
NPO法人ウィメンズアイ
宮城県登米市迫町佐沼新大東125
womensacademyintohoku@gmail.com

●発行：NPO法人ウィメンズアイ
●編集：小島まき子
●デザイン：桜田ゆかり
●撮影：古里裕美（8/5・6）
鈴木友和（8/7）
塩本美紀（8/7）
●協力
OXFAM Japan

JEN Japan Emergency NGO
この事業は、特定非営利活動法人JEN（ジェン）の協力により開催されました。
JENとは：世界各地で紛争や自然災害などにより厳しい状況にある人びとへ、緊急から復興の各段階できめ細やかな支援活動を展開する国際NGO。岩手・宮城・福島県では現地の団体とパートナーシップを組み、女性や若者、こども等を支援する。